

家庭決算書

お金に関する情報で、万人にとって正解と言えるようなものは、ありません。各家庭の個性によって、家庭で何にお金を使うべきかの判断は、異なります。例えば、資産運用のリスクひとつとってみても、収入が多いか少ないか、借金が多いか少ないか、何歳まで働けるか、子供は何人いるか、どんなライフイベントを計画しているかといった各家庭の個性によって、資産運用のリスクの許容範囲は異なります。したがって、家庭で何にお金を使うべきかを正しく意思決定するためには、お金に関する自分たちの家庭の会計情報がどうしても必要になってきます。

家庭決算書は、家庭の経営管理のために、家庭の経営者が自分自身で作り上げるべき、家庭の会計情報です。この家庭決算書を作成する最終的な目標は、「健全な家庭を維持」し、「消費満足を高める」ことにあります。つまり、家庭決算書は健全な家庭を維持し、消費満足を高めるためのツールなのです。

家庭決算書には、働き方、暮らし方、家族の成長など、家庭生活のすべてが家庭の内部情報として、会計数字で記録されています。ですから、家庭生活における必需品のひとつと言えますし、お金を使うという意味決定をする場合に便利で有効なツールとして利用することができるのです。もちろん、あなたが仕事をして、今までに築き上げた財産の金額と今年1年間に築き上げた財産の金額も明らかにしてくれます。

家庭決算書を持てば、一家の大黒柱である家庭の経営者は、家庭の財産状況がどのようになっているのか、また家庭の正味財産をいかに増やすかなどの方法が良く分かり、どうするのがいいのかをしっかりと考えることができます。さらに、家庭生活のライフイベントの経済的な影響の規模を把握し、その影響をコントロールする方法を理解することで、自分自身の経営ができ、人生設計ができ、家庭生活のゴーイングコンサーン（継続）も可能になります。

また、家庭の経営者は、家庭生活の事実を「会計数字」で把握することによって、今、物を購入することが良いのか、待つべきなのかを判断したり、自分の家庭が経営危機に瀕していたりしないかとか、どこが問題かなどをはっきりさせることができます。もし、債務超過になったとしても、その事実を会計数字で正しく認識できれば、そこから改善がはじまるのです。

家庭決算書は、二つの報告書からできています。その一つは財産対照表で、もう一つは消費損益計算書です。両者は一体となって構成されており、どちらか一方が欠けると家庭の経営には役立ちません。

財産対照表は家庭の財産の状況を明らかにし、消費損益計算書は家庭の消費損益を明らかにするための報告書です。

家庭決算書は、家庭簿記（家庭用複式簿記）という一定のルールに従って、組織的に作り上げられた真実の情報で、家庭生活を継続的に明らかにしていく会計情報です。この会計情報を利用することで、自分たちの家庭の経営分析、評価や反省ができ、今後のあり方を考えたり、将来の長期計画を作成したり、着実な夢の実現を図ることに役立つのです。

2. 財産対照表と消費損益計算書の関係

財産対照表と消費損益計算書という2つの報告書（家庭決算書）の内容は、次のようになっています。

（1）財産対照表

財産対照表は、左方（ひだりかた）に資産、右方（みぎかた）に負債と正味財産の2つから構成されています。また、資産の合計金額と負債と正味財産の合計金額は一致します。

財産対照表

左方（ひだりかた）	右方（みぎかた）
資産	負債
	正味財産

（2）消費損益計算書

消費損益計算書は、左方（ひだりかた）に消費、右方（みぎかた）に収入で構成され、収入と消費の差額を当期消費損益と言います。

消費損益計算書

左方（ひだりかた）	右方（みぎかた）
消費	収入

財産対照表と消費損益計算書の両者の関係は、次のようになっています。

(例) 給与収入が現金で 1,000 あった場合

財産対照表

科目	金額	科目	金額
資産 現金	1,000	負債	0
		正味財産	
		家族財産	0
		留保財産	0
		当期消費損益	1,000
資産合計	1,000	負債・正味財産合計	1,000

消費損益計算書

収入	
給料	1,000
消費	
税金等	0
日常生活費	0
その他生活費	0
通常消費損益	1,000
特別収入	0
特別消費	0
当期消費損益	1,000

一致

家庭決算書では財産対照表と消費損益計算書の当期消費損益の金額は一致します。